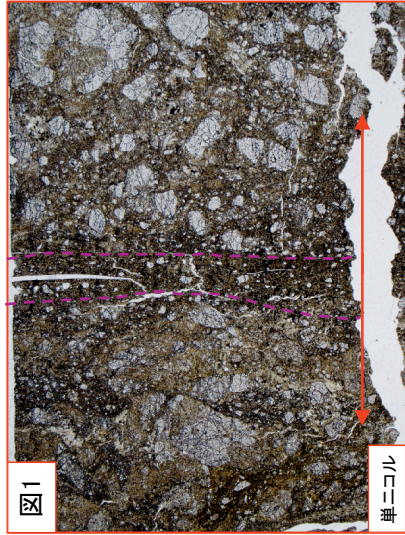
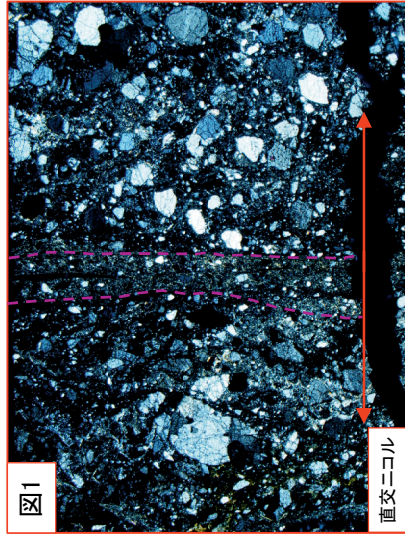
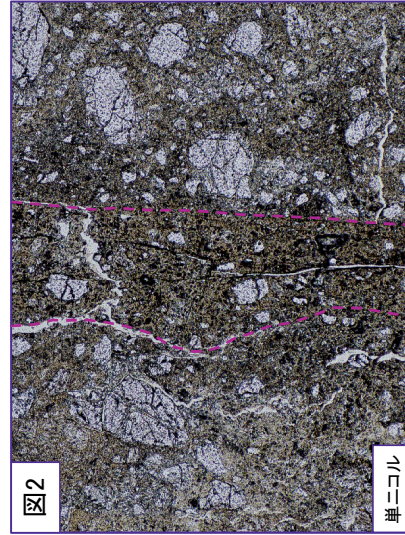
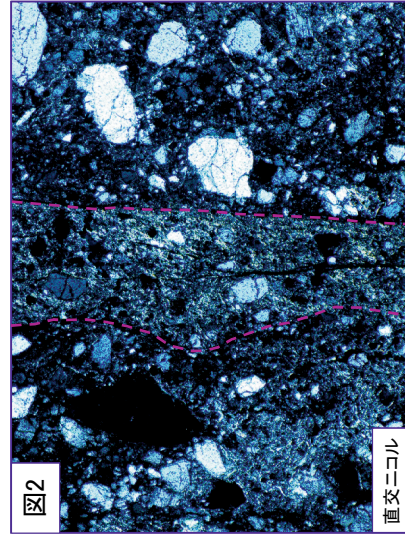


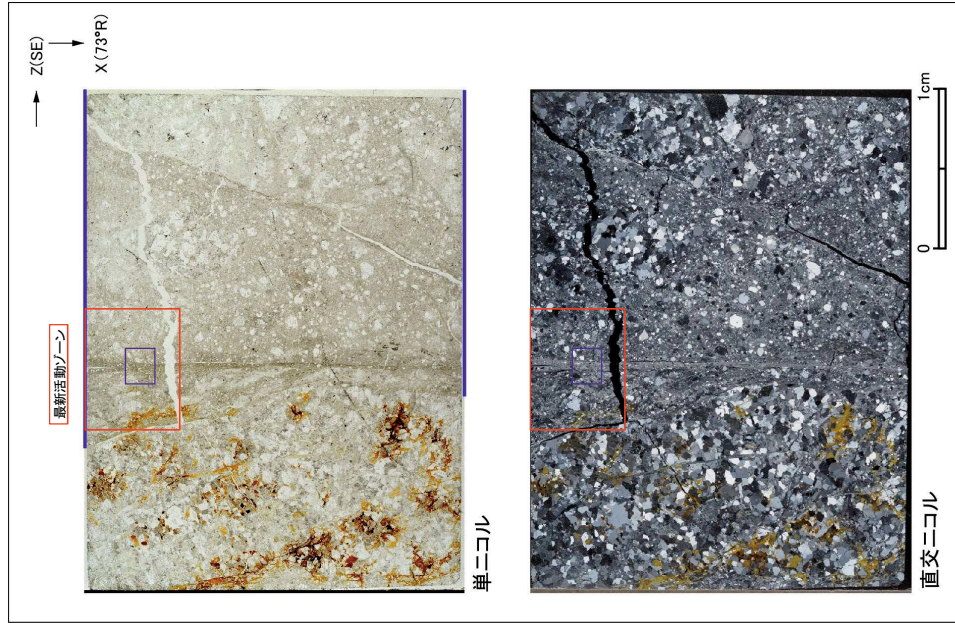
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。(図1)
  - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。(図1)
  - 多様な粒径の岩片が認められる。(図2)
  - 角ばった岩片が多い。(図2)



破線は粘土状部の分布範囲を示す  
赤矢印は粘土鉱物の分布は漸移的に変化する事を示す

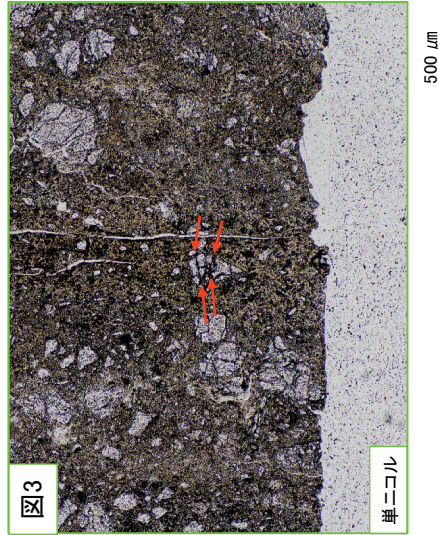
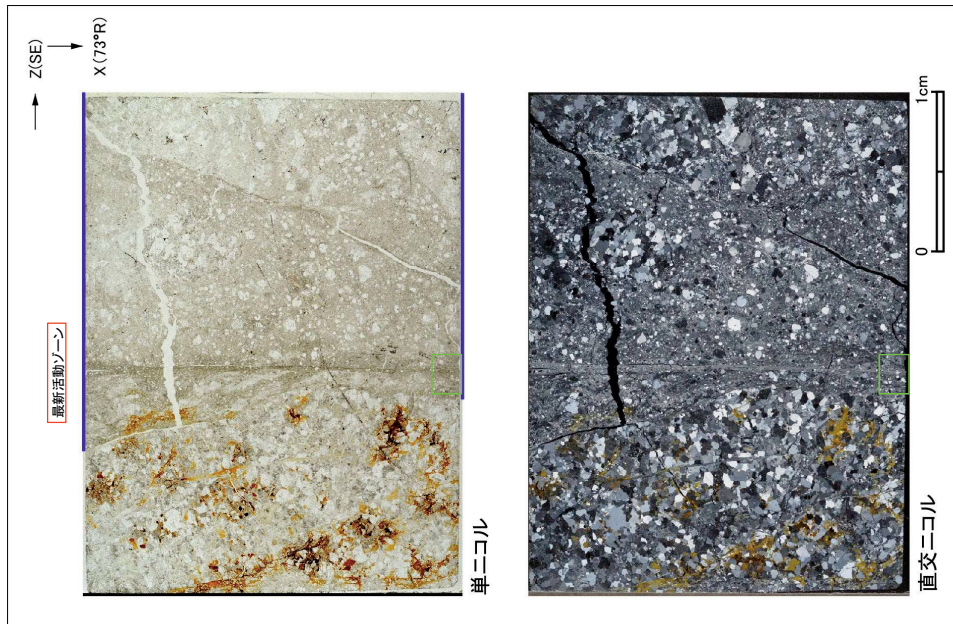


破線は粘土状部の分布範囲を示す

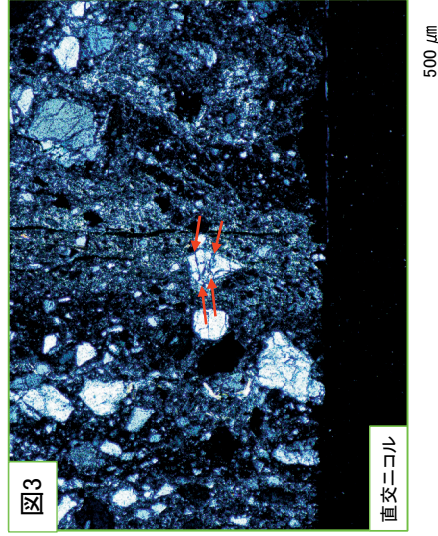


凡例  
 断層ガウジ  
 カタレーサイト

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



(肉眼観察結果 深度42.24m)

- 深度42.24mの「幅2mmの軟質な灰白色粘土」と記載の箇所については、軟質で、粘土の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから、断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 $\alpha$ に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 $\alpha$ は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められなかった。
  - 基質を構成する粘土鉱物は少ない。
  - 粘土鉱物の分布は漸移的に変化する。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 角ばった岩片が多い。
  - 多様な粒径の岩片が認められる。
  - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部をカタクレーサイトであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から変質したカタクレーサイトであると評価した。

- 肉眼観察で確認された「幅2mmの軟質な灰白色粘土」と記載の箇所は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
  - 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴からカタクレーサイトであると判断した。
- 肉眼観察で断層ガウジと認定した「幅2mmの軟質な灰白色粘土」と記載の箇所は、薄片観察では岩片主体の基質で構成されている。このため最新活動ゾーンの細粒部は変質したカタクレーサイトと評価した。

断層ガウジ・ 断層角礫の有無	断層ガウジ・ 断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・ 変形構造 *
無	- (0.2)	- (無)

\*: 断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。  
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度42.68～42.80mの「粘土質礫状～礫混じり砂状」と記載の箇所については、やや硬質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・一方、下端の深度42.80mにはフィルム状の粘土が挟在しており、幅が狭いため、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかったが、直線性は良い。これらことから断層ガウジとして扱ったこととした。

ボーリング柱状図

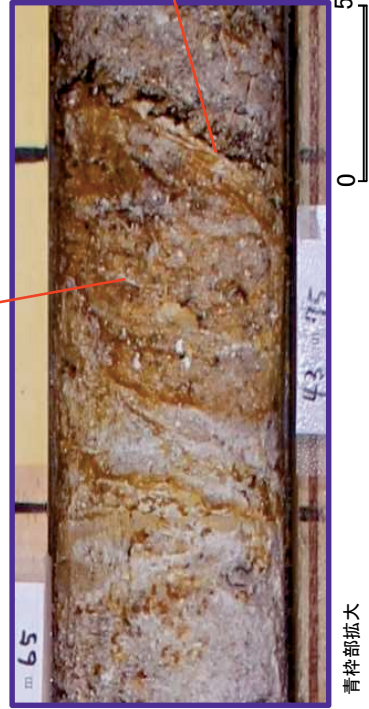
●42.68～42.80m：破碎部  
 粘土質礫状～礫混じり砂状部(Hb)。  
 上端10°で漸移的、下端35°で直  
 線的なフィルム状の浅黄橙色粘土  
 を挟む。やや硬質。褐色を呈する。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ  
 破碎部範囲※  
 ※：写真上は白色で記載

細粒部は局所的に分布する



直線性が良い浅黄橙色のフィルム状粘土

第7.4.4.370図(1) 破碎部性状 H31-R-1 深度42.68～42.80m (肉眼観察による断層岩区分)

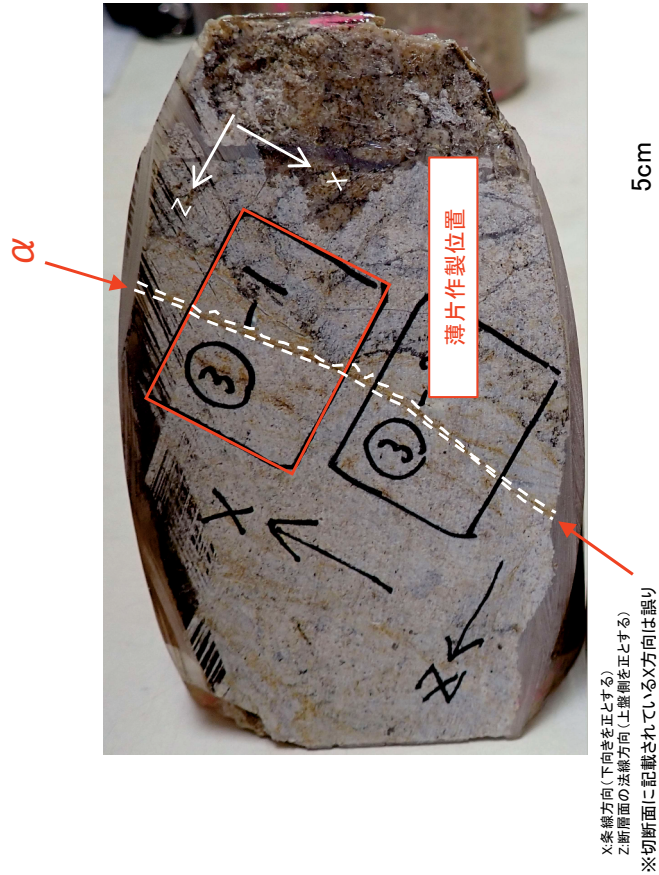
・薄片は断面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断面  $\alpha$  は最新活動面

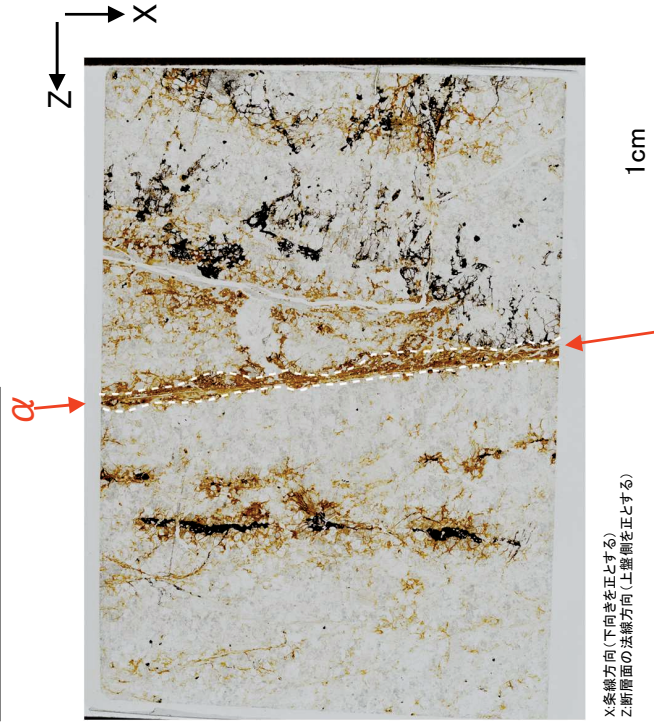


薄片作製位置写真



X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断面面の法線方向(上盛側を正とする)  
※切断面に記載されているX方向は誤り

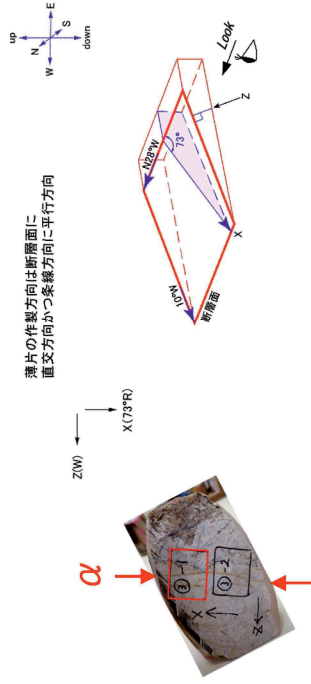
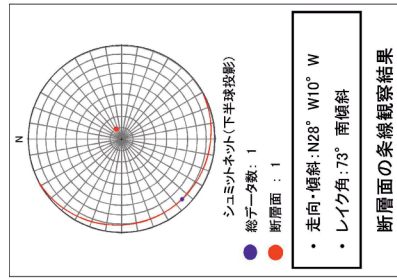
薄片全景写真(単ニコル)



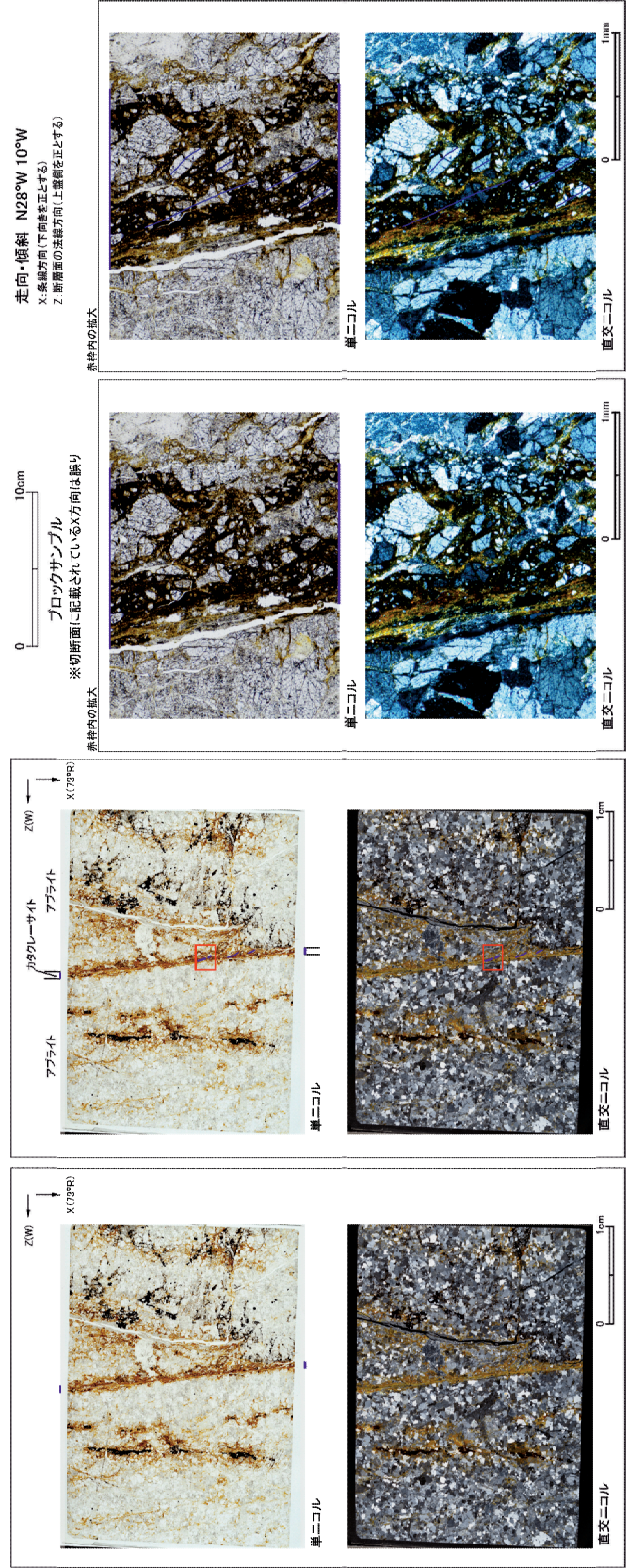
X: 条線方向(下向きを正とする)  
Z: 断面面の法線方向(上盛側を正とする)

・H31-R-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、逆断層センスが卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、カタクレーサイトのみからなる破砕部であると判断した。

- (カタクレーサイト)基質を構成する粘土鉱物は少ない。
- (カタクレーサイト)粘土鉱物の量は漸移的に変化する。
- (カタクレーサイト)多様な粒径の岩片が多く認められる。
- (カタクレーサイト)角ばった岩片が多い。



※断層面  $\alpha$  は最新活動面



第7.4.4.370図 (3) 破砕部性状 H31-R-1 深度42.68~42.80m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))